



高齢者施設の感染対策 (基本編)

手指衛生

手洗い・手指消毒

- 手洗い・手指消毒を適切なタイミングで行えるように、石けんや消毒薬を配置する。
- 消毒薬の設置が困難な場合は、個人用を携帯する。
- ケアの前後には、必ず手を洗い・手指消毒を使う。
- 手指消毒薬は、手を洗うタイミング・手袋を取り替えるタイミングで行う。



正しい手洗い

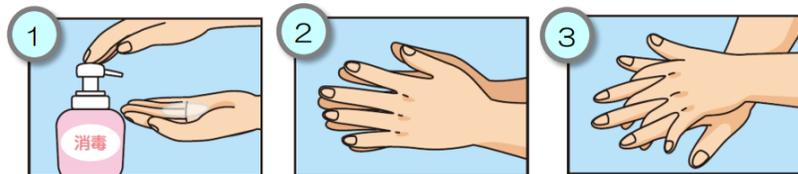


1 初めに、水で手を濡らし、石けんを手に取ります
 2 石けんをよく泡立てながら、手の甲を伸ばすように、手のひらを洗います
 3 手の甲を伸ばすように洗います

続きは、厚生労働省のホームページからポスターを印刷して掲示しましょう。



正しい手指消毒



1 十分量を手の平に取ります
 2 手のひらをこすりあわせませ
 3 手の甲を合わせてすりこみます

個人防護具

正しく着脱する

- 感染の危険から身を守るためには、個人防護具を正しい方法で脱衣することが重要。
- 一度着用した個人防護具は**再利用しない**。
- 脱衣後は、足踏み式の蓋つきゴミ箱に廃棄する。
- 個人防護具やユニフォームに、消毒薬を噴霧しない。汚染した場合は交換する。
- 食事介助や口腔ケア、マスクが着用できない対象者に至近距離で対応するとき等の飛沫をあびるケアの際はフェイスシールドを着用する。
- 咳込みの多い方をケアする際は、対象者にもマスクを着用してもらおう。
- 感染が拡大している時は個人防護具の使用量が増えるため、在庫や入荷予定状況を確認する。

着脱手順のイラストや写真を、着脱エリアに掲示しましょう。

[PowerPoint プレゼンテーション \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)



ゾーニング

区別をして人の流れを明確にする

ウイルスは、レッドゾーンで抑え、グリーンゾーンに持ち込まない！
カラーテープを貼って、職員の目に見えるようにしておく。

レッドゾーン:

陽性者がいるエリア、職員が个人防护具を着用して対応するエリア
レッドゾーンで使用したものや持ち込んだ物は、原則外に持ち出すことができない

イエローゾーン:

職員が个人防护具を脱衣するエリア

グリーンゾーン:

陽性者がいないエリア、職員が私服で過ごすエリアで、个人防护具は着用しない
未使用の个人防护具を置き、このエリアで着て、レッドゾーンに行くこと



管理体制

職員の勤務管理・健康管理



- 職員が感染し、出勤できる職員数が減ることが想定される。職員の応援体制をシミュレーションする。
- 職員間で感染が広がらないように、休憩室や食堂の利用人数や利用のルールを定める。



- 発熱や咳等の症状がある職員は出勤してはいけない。
- 職員の健康観察記録は個人に任せるのではなく、管理者が管理する仕組みを作ることが重要。
- 職員自身の感染の不安や具合が悪い入居者の対応にあたり、職員は心身ともに疲弊する。
- 管理者は、職員の休息やメンタル支援を考える。



令和4(2022)年7月

【作成】

埼玉県保健医療部 感染症対策課 入院調整・クラスター対策担当

